

第59回 宮崎海岸市民談義所

日時：令和7年9月20日(土)13時～16時
場所：宮崎市佐土原総合支所2階研修室
国土交通省宮崎河川国道事務所・宮崎県

本日の議事

本日の議事

1. 市民談義所等の振り返り

- (1)宮崎海岸の検討体制・手順の確認
- (2)第58回宮崎海岸市民談義所の振り返り

2. 本日の談義

- (1)当面の工事予定
- (2)これからの侵食対策事業について
- (3)談 義

3. 今後のスケジュール

1. 市民談義所等の振り返り

(1)宮崎海岸の検討体制・手順の確認

(2)第58回宮崎海岸市民談義所の振り返り

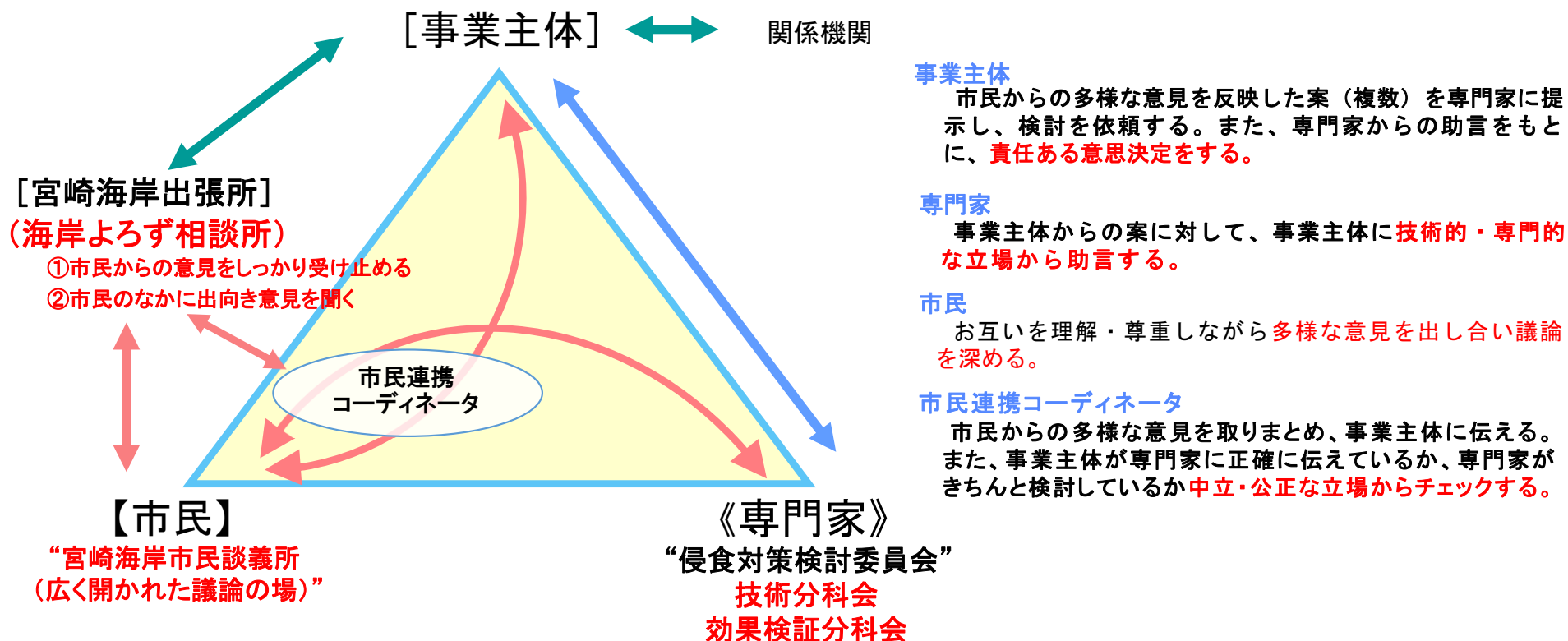
(1)宮崎海岸の検討体制・手順の確認

1)宮崎海岸トライアングル

- 4 -

宮崎海岸トライアングル

宮崎海岸の砂浜の保全を目的として、**行政・市民・専門家が三者一体**となって進めていきます。



事業主体

市民からの多様な意見を反映した案（複数）を専門家に提示し、検討を依頼する。また、専門家からの助言をもとに、**責任ある意思決定**をする。

専門家

事業主体からの案に対して、事業主体に**技術的・専門的な立場**から助言する。

市民

お互いを理解・尊重しながら**多様な意見**を出し合い議論を深める。

市民連携コーディネータ

市民からの多様な意見を取りまとめ、事業主体に伝える。また、事業主体が専門家に正確に伝えているか、専門家がきちんと検討しているか**中立・公正な立場**から**チェック**する。

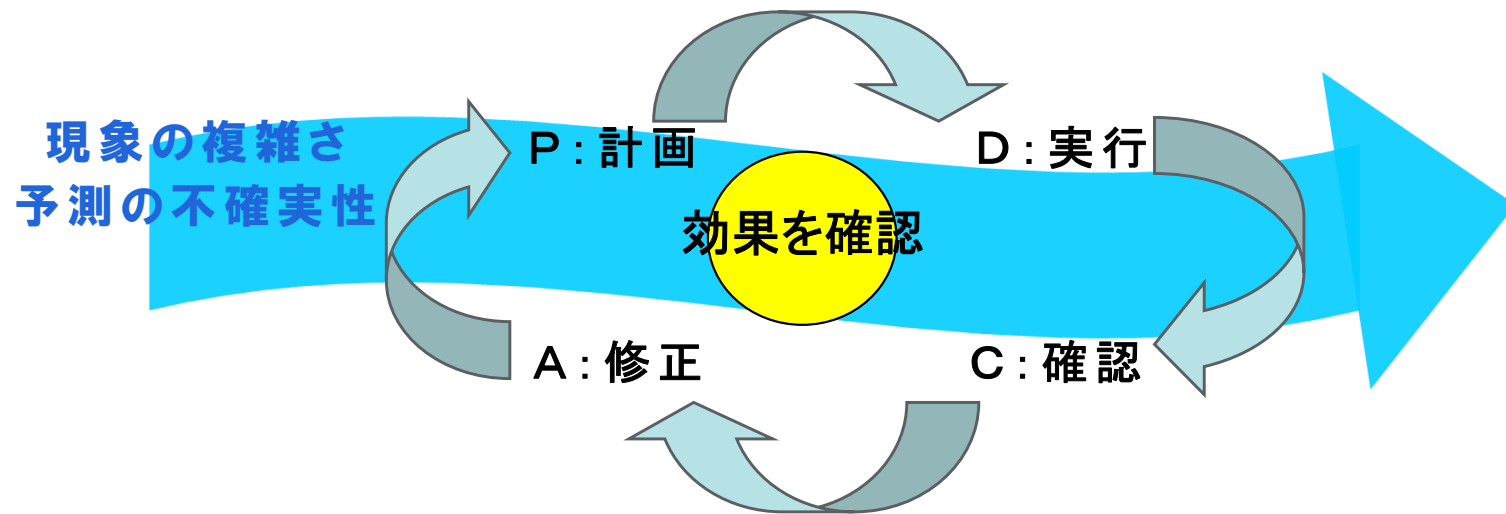
(1)宮崎海岸の検討体制・手順の確認

2)宮崎海岸ステップアップサイクル

- 5 -

宮崎海岸ステップアップサイクル

自然現象の複雑さと社会環境・自然環境の変化に対する未来予測の不確実性を踏まえ、どのような方法をとればよいかを検討・実施し、その方法の効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進めていきます。



(1)宮崎海岸の検討体制・手順の確認

3)宮崎海岸侵食対策の全体の流れ

- 6 -

宮崎海岸侵食対策 第一部 計画立案・実施(H20～R4)

- ・対策の検討【～H23】
- ・対策の実施【H24～R4】
- ・対策の効果・影響の確認【H24～R4】

ステージ1～3

施設計画

- ・突堤3基(300m,150m,50m)
- ・養浜280万m³

突堤延伸は現時点では困難・・・



宮崎海岸侵食対策 第二部 計画見直し・実施(R5～R19)

- ・対策の検討【R5～】
- ・対策の実施【R7～R19】
- ・対策の効果・影響の確認【R8～R19】

ステージ4～6

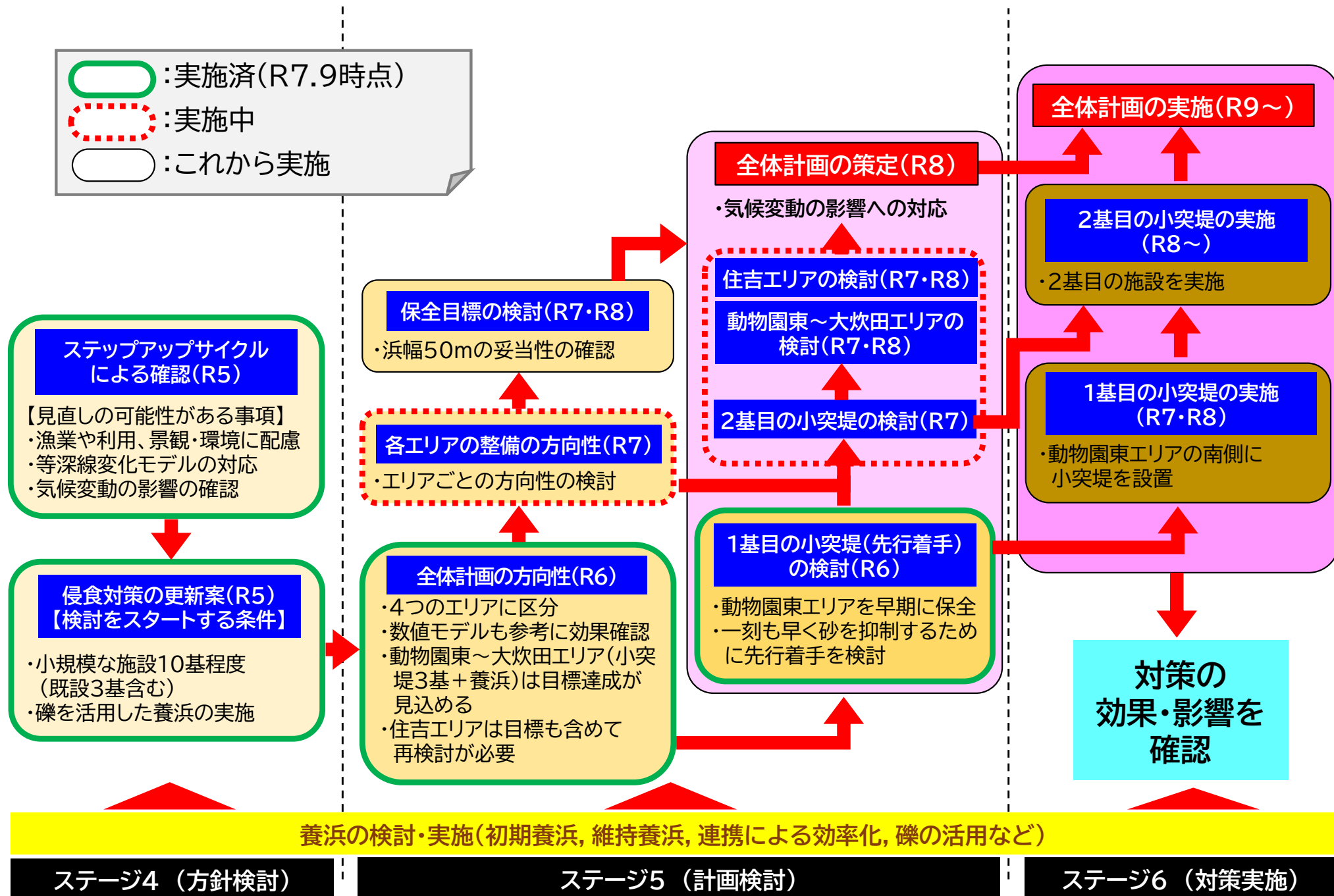
見直し施設計画(検討中)

- ・小突堤など小規模な施設を複数基
- ・礫も活用した養浜

(1)宮崎海岸の検討体制・手順の確認

- 7 -

4)第二部 計画見直し・実施のステージ進行図



(2)第58回宮崎海岸市民談義所の振り返り

1)開催状況

- 8 -

□開催日時:令和7年6月14日(土)13時～16時

□場 所:佐土原総合支所 2階研修室

□参加した市民:19名

□議事概要:

1. 宮崎海岸の検討体制の確認
2. 第57回宮崎海岸市民談義所の振り返り
3. 第25回委員会の報告
4. 侵食対策や今後の進め方などについて【談義】
5. スケジュール
6. その他(工事予定など)



談義の様子



各テーマの談義内容の共有の様子

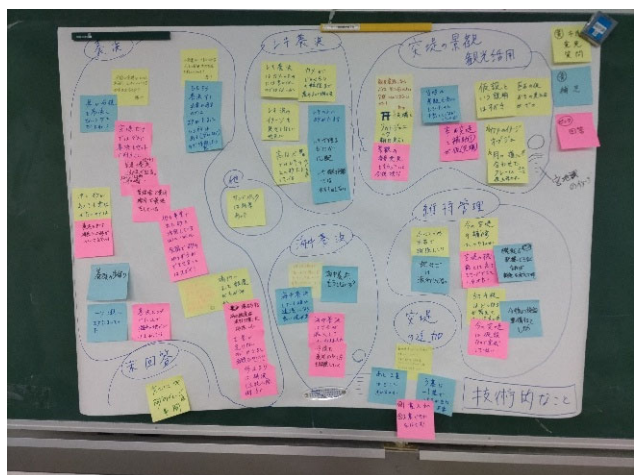


各テーマの談義の様子

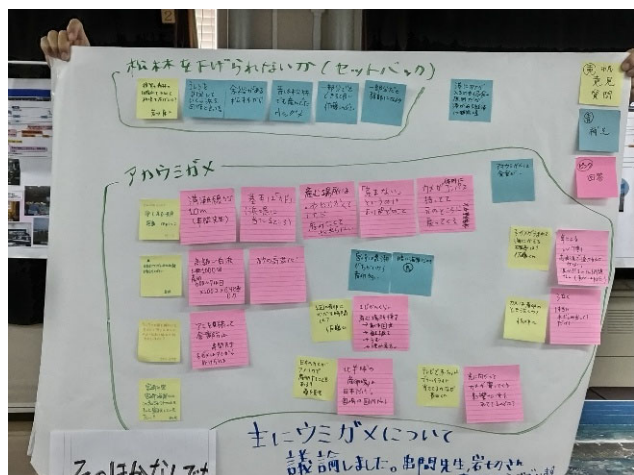
参考:前回の談義の様子

- 9 -

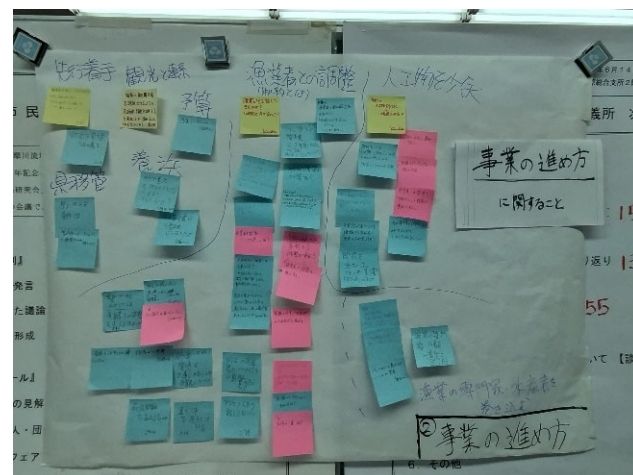
技術的なこと



事業の進め方



そのほかなんでも



(2)第58回宮崎海岸市民談義所の振り返り

- 10 -

2)前回の談義内容(コーディネータのまとめ)

- ・本日は密に議論するために、机を分けて、各机を移動できる形式で談義した。付箋紙に書かれた意見、参加者が発言した内容は、各机でメモして記録に残している。それらの**すべての意見がこれからの宮崎海岸の侵食対策に活かされていくように**、事務局で整理し、これからの対策を考えていくときの基礎になる。これだけ**たくさんの意見が出たこと自体が、今日の談義所の大きな成果**である。
- ・技術的なことについては、**他の海岸の事例などを一緒に勉強するような場**も必要と感じた。例えば突堤を作った他の地域では漁協とどのような話し合いを行ったのか、技術的な課題をどのように共有し、コミュニケーションしていったのか、どのようなことができて、できなかったことはなにかなどの情報が収集できれば、宮崎海岸の侵食対策を考えるヒントが得られる。
- ・この侵食対策事業の見直しは、次善の策として、**小突堤から検討を始め**るとして進めてきている。一方、市民談義所の皆さんの意見は、**突堤を伸ばすことをあきらめない**、市民も一緒に考えるし、必要であれば自分たちも助力する、という意見もあった。長い突堤を作ることについても、それをどう実現していくのか、**みんなで知恵を出し合う**機会が必要になる。
- ・「技術的なこと」、「事業の進め方」両方の机で**観光に関する意見**があがっていた。宮崎海岸を**どう作っていくか**だけでなく、**どう使っていくか**ということに関する議論も出てきたのは、本日の大きな収穫である。“アカウミガメの浜”といったようにエリアに名前をつけ、若い人も集まるように、また**宮崎海岸の魅力が地元の人に周知されるような仕掛け**についても提案があった。**宮崎海岸のことを勉強してアカウミガメのことを知り、それを発信して得られたリアクション**をこの宮崎海岸の**侵食対策事業に活かしていく**プロセスも実現する必要があると感じた。
- ・今日はたくさんの意見が出たので、市民連携コーディネーターとして侵食対策事業に反映できるように尽力する。

(2)第58回宮崎海岸市民談義所の振り返り

- 11 -

3)これまでの意見に対する説明 1/3

○前回(第58回市民談義所)および計画見直し以降に開催した市民談義所(第50回(R6.2開催)～第57回(R7.4回))での意見について、繰り返し出されている意見、十分に納得されていない意見など、今後の事業推進に大きく関連すると考えられる主な意見について整理した

分 類	意見	事業主体の回答(案)
事業の 進め方	見直し計画で「コンクリート構造物をできるだけ減らす」が実現できるのか	コンクリート構造物をできるだけ作らない対策を考えている
	構造物に頼らない方法について検討しないのか	背後地の安全性を確保するためには最小限の構造物は必要と考えている
	突堤の数だけ多くなり砂浜が回復しないことを危惧している	小突堤のみでは浜幅50mは困難と考えているが、動物園東～大炊田エリアは小突堤＋養浜で目標達成が見込めると考えている。住吉エリアについては対策を再検討する必要がある
	議論が十分にされないまま対策が進められているように感じる	今後も談義所を行い、密にコミュニケーションを取りながら進める また、海岸よろず相談所も大いにご活用いただきたい
	市民の意見がどのように反映されているのか見えてこない	談義所の意見は委員会等にしっかりと伝えている 委員会や分科会のどの部分で市民の意見が議論されているかわかるように工夫していきたい
	施設設置後に、効果がないとわかった場合には撤去できるのか	効果がある対策を実施しており、効果検証を実施し、必要に応じて修正・改善を加える
	陸側の保安林などを砂浜にすること(セットバック)は考えられないか	現時点では困難であるが中長期的な課題と考える
	どのような状態になれば県に移管できるのか	浜幅が安定的に維持できる状態と考えている
突堤の 堤長	突堤の成功事例はあるのか	施設だけでは砂浜は回復しない。施設と養浜をセットで砂浜を回復することができると考えている。他海岸の事例紹介も適宜行っていく
	突堤の堤長は長いほど効果があるのであれば、突堤を伸ばすことをあきらめないで漁業者と調整等していくことが必要では 漁業操業の支障の内容・意図を把握する必要があるのでは	現時点では“沖合は現況突堤と同程度まで”ということで漁業者と合意しているが引き続き、突堤堤長等について継続的に協議・調整等を行う ヒアリングをして整理している

(2)第58回宮崎海岸市民談義所の振り返り

3)これまでの意見に対する説明 2/3

- 12 -

分 類	意見	事業主体の回答(案)
1基目 (先行着手)の 小突堤	小突堤では砂の流出は止められないのではないか	長い突堤のほうが良いと考えているが次善の策として養浜も合わせて浜幅を確保する
	砂を止めるために、陸側基部と護岸の間は仮設ではなく確実にふさぐ必要があるのでは	必要性は認識しており、ふさぐかたちで具体的に検討する
	波の集中する箇所であり不安がある	設置位置周辺の施設状況や動物園東エリアへの砂浜回復効果等を総合的に勘案してこの位置とした
	台風時期の波を考えると北側に設置するほうが良いのでは	
	小突堤を追加しても砂浜は回復しないのではないか	既設突堤の位置よりも地形的に砂は付きやすい位置である。なお、シミュレーション等でも効果を確認している
	仮設の突堤で効果を確認してから本対策を行うことはできないのか	突堤は知見多い施設であるため仮設で効果を確認することは難しい
既設突堤の 効果	既設突堤の効果を測量等のデータから示してほしい	提示する
	既設突堤は効果が出ていないのではないか	一定の効果は出ていると考えている
住吉エリア	なぜ住吉エリアは浜幅50m達成が難しいのか	護岸が海側に突出していることなどが考えられる
	突堤を追加するのではなく、ゼロから計画を考え直したほうが良いのではないか	突堤以外の対策も含めて検討する
養浜	パイプラインを用いたサンドバイパスシステムは考えられないのか。また、その場合の費用はどの程度か	可能性を検討する
	養浜に用いる砂を確保できるのか	引き続き関係機関と連携しながら確保に努める
	これまでの養浜の効果により自然環境・漁業資源が豊かになっているのでは	明瞭な関係性は示せないがどのように変化しているかは調査で把握している

(2)第58回宮崎海岸市民談義所の振り返り

- 13 -

3)これまでの意見に対する説明 3/3

分 類	意見	事業主体の回答(案)
養浜(つづき)	今の宮崎海岸では波に砂がさらわれてサンドバックが露出し、上陸できても工事用道路部分が固くて産卵できない、という状況であるカメが上陸・産卵できるように養浜なども工夫してほしい	養浜の工夫などについて検討する
	礫養浜はアカウミガメの上陸・産卵には適さないのでは	具体(例:礫の程度による上陸・産卵への影響等)について調査・検討する
総合土砂	河川から自然に土砂が流れてくるようにしてほしい	関係機関と連携する
	総合土砂管理による関係機関との連携が不十分ではないか	今後、大淀川土砂管理計画を策定予定であり、その次は一ツ瀬川に取りかかる。
利用・景観	突堤を工夫して、利用や観光資源にできないか	安全性確保の課題があり今すぐには困難であるが、常に議論しておくことは重要である
	コンクリート以外の素材で突堤ができるのであれば検討してほしい	コンクリート以外での素材では突堤の安定性を担保することが困難であるが、海岸の風景になじませるなどコンクリート利用にあたり、景観に配慮して整備する
気候変動	地球温暖化の影響の評価は過去から変化しているのではないか。海岸事業として考慮していくのか	計画に見込む必要があると考えており、事業への反映の方法・タイミングなどを検討する



【事業主体の対応の方向性】

○これからも市民の意見・想いや議論を踏まえ、委員会・分科会で助言を受けながら、様々な調査・検討を市民と一緒に考えていく

○侵食は今現在も進行しており、何らかの対策を進めていく必要がある。このため、現段階では現在の制約で実施可能な対策を進めていくが、並行して突堤の延伸等の制約に対して関係者と協議・調整を継続する

参考:これまでの意見一覧

分類	意見	回答	市民談義所(開催回・年月)									
			58	57	56	55	54	53	52	51	50	
			R7.6	R7.4	R7.2	R7.12	R7.11	R7.9	R6.7	R6.6	R6.2	
事業の進め方	見直し計画で「コンクリート構造物をできるだけ減らす」が実現できるのか	コンクリート構造物をできるだけ作らない対策を考えている	○				○		○	○		
	構造物に頼らない方法について検討しないのか	背後地の安全性確保に必要な最小限の構造物と考えている				○						
	突堤の数だけ多くなり砂浜が回復しないことを危惧している	小突堤では浜幅50mは困難と技術分科会でも指摘があり十分に検討する									○	
	議論が十分にされないまま対策が進められているように感じる	談義所の回数を増やすなどして説明・議論して進める	○		○							
	市民の意見がどのように反映されているのか見えてこない	談義所の意見は委員会等によりしっかりと伝えている		○		○						
	漁業者とこれまでにどのような協議をしてきたのか	突堤の堤長などについて3か月に1回程度協議しており、今後も実施する	○			○			○			
	小突堤などを設置した後に、効果がないとわかった場合には撤去できるのか	存置が不適当と明確になった場合には撤去も検討する	○									
	陸側の保安林などを砂浜にすること(セットバック)は考えられないか	現時点では困難であるが中長期的な課題と考える	○									
	どのような状態になれば県に移管できるのか	砂浜が安定的に維持できる状態と考えている						○				
	突堤の成功事例はあるのか	施設だけでは砂浜は回復しない。施設と養浜をセットで砂浜が回復できる	○									
突堤の堤長	突堤の堤長は長いほど効果があるのであれば、突堤を伸ばすことをあきらめないで調整等していくことが必要では	現時点では“沖合は現況突堤と同程度まで”ということで漁業者と合意しているが引き続き、突堤堤長等について継続的に協議・調整等を行う	○	○	○		○			○	○	
	漁業操業の支障について、その内容・意図を把握する必要があるのでは	ヒアリングをして整理しているが、今後も確認する	○	○	○			○				
先行着手の小突堤	小突堤では砂の流出は止められないのではないか	長い突堤のほうが良いと考えているが次善の策として養浜も合わせて浜幅を確保する							○	○		
	台風時期の波を考えると北側に設置するほうが良いのでは			○								
	砂を止めるために、陸側基部と護岸の間は仮設ではなく確実にふさぐ必要があるのでは	必要性は認識しており具体的に検討する	○	○								
	波の集中する箇所であり不安がある	護岸の状況等を勘案してこの位置とした		○								
	小突堤を追加しても砂浜は回復しないのではないか	既設突堤の位置よりも砂は付きやすい位置でありシミュレーション等でも効果を確認している			○	○	○	○				
	小突堤を追加するのではなく、既設突堤の改良(T型など)で対応できないか	改良についても検討するが、追加小突堤の代わりに効果は出せないと考え					○					
既設突堤の効果	仮設の突堤で効果を確認してから本対策を行うことはできないのか	突堤は知見多い施設であるため仮設で効果を確認してから実施は難しい				○						
	既設突堤の効果を測量等のデータから示してほしい	提示する		○	○			○				
住吉エリア	既設突堤は効果が出ていないのではないか	一定の効果は出ていると考えている			○							
	なぜ住吉エリアは浜幅50m達成が難しいのか	護岸が海側に突出している等の理由による		○								
養浜	突堤を追加するのではなく、ゼロから計画を考え直したほうが良いのではないか	突堤以外の対策も含めて検討する			○							
	パイプラインを用いたサンドバイパスシステムは考えられないのか。また、その場合の費用はどの程度か	可能性を検討する	○									
	養浜に用いる砂を確保できるのか	関係機関と連携して確保する		○					○			
	これまでの養浜の効果により自然環境・漁業資源が豊かになっているのでは	明瞭な関係性は示せないがどのように変化しているかは調査で把握している			○							
	今の宮崎海岸はカメが上陸できない、上陸できても固くて産卵できない、という状況であるカメが上陸・産卵できるように養浜なども工夫してほしい	養浜の工夫などについて検討する	○					○	○		○	
	磯養浜はアカウミガメの上陸・産卵には適さないのでは	具体について調査・検討する	○	○	○			○				
総合土砂	河川から自然に土砂が流れてくるようにしてほしい	河川管理者と連携する	○									
	総合土砂管理による河川との連携が不十分ではないか	協議・調整は行っているが、引き続き調整する		○	○	○		○	○		○	
利用・景観	突堤を工夫して、利用や観光資源にできないか	安全性確保の課題があり今すぐには困難であるが今後の課題とする	○	○	○							
	コンクリート以外の素材で突堤ができるのであれば検討してほしい	景観にも配慮して整備する			○							
気候変動	地球温暖化の影響の評価は過去から変化しているのではないか。海岸事業として考慮していくのか	計画に見込む必要があると考えており検討する		○	○							

2. 本日の談義

(1)当面の工事予定

(2)これからの侵食対策事業について

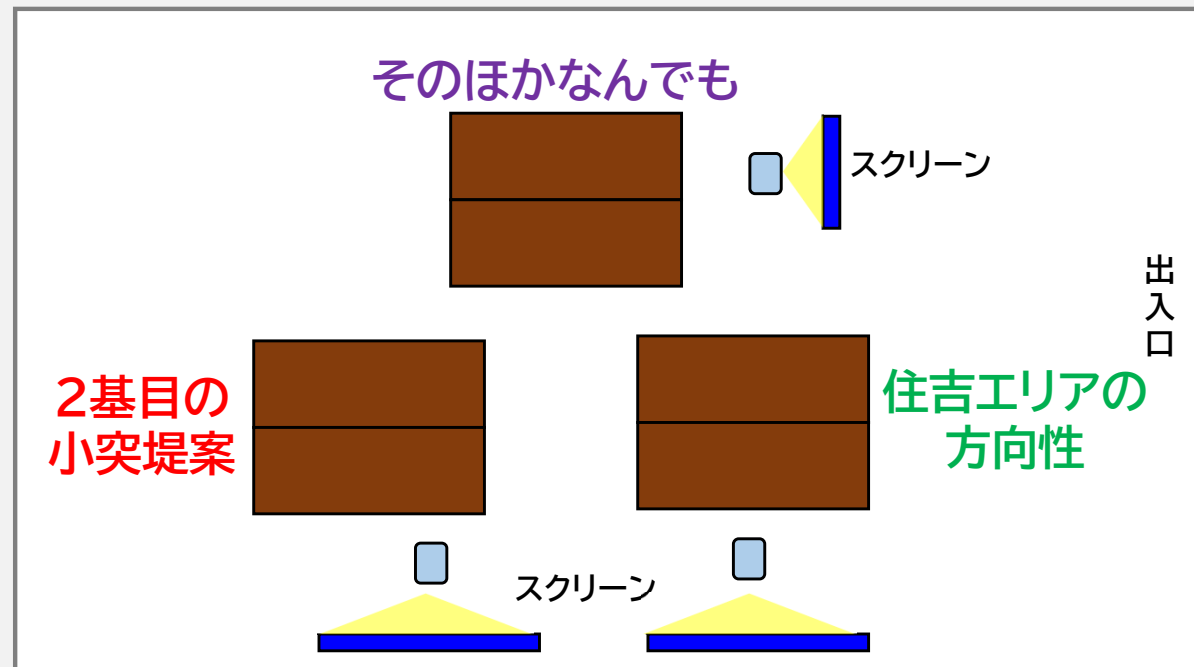
(3)談 義

本日の談義 ①談義の項目と進め方

■談義の項目 : 2基目の小突堤案と住吉エリアの方向性

■談義の進め方

- テーマごとに3つの机を用意します
- 各機のテーマは
「**2基目の小突堤案**」、「**住吉エリアの方向性**」、「**そのほかなんでも**」です
- 各机で質問・意見等をお話してください
事務局、コーディネータ、コンサルと一緒に考えます
- 最後に、各机での質問・意見をみんなで確認します



本日の談義 ②3つのテーマについて

○質問・意見はどのような内容でも良いですが、議論しやすいよう、質問しやすいようにテーマを設けました

○各テーマは下記のような内容をイメージして設定しました

テーマ	内容の例
2基目の小突堤案	・対策をすることによってどのような効果が期待できるのか ・2基目の小突堤について、環境・利用等に配慮してほしいこと ・施工後の周辺への養浜はどの程度実施するのか
住吉エリアの方向性	・住吉エリア内でもゾーニングができるのではないか ・住吉エリア内で実施する対策は画一的でなくてはならないか ・イメージする住吉エリアの海岸像は〜〜〜だ ・9つの案(案a1～c3)以外には考えられないか
そのほかなんでも	・突堤は観光などに利用できないのか ・整備をすると自然環境は良くなるのか ・礫だらけの海岸になるのでは ・当面の工事で利用に影響はあるのか ・工事の予定はかえられないのか

2. 本日の談義 (1)当面の工事予定

1)養浜

2)1基目(先行着手)の小突堤

3)大炊田の埋設護岸

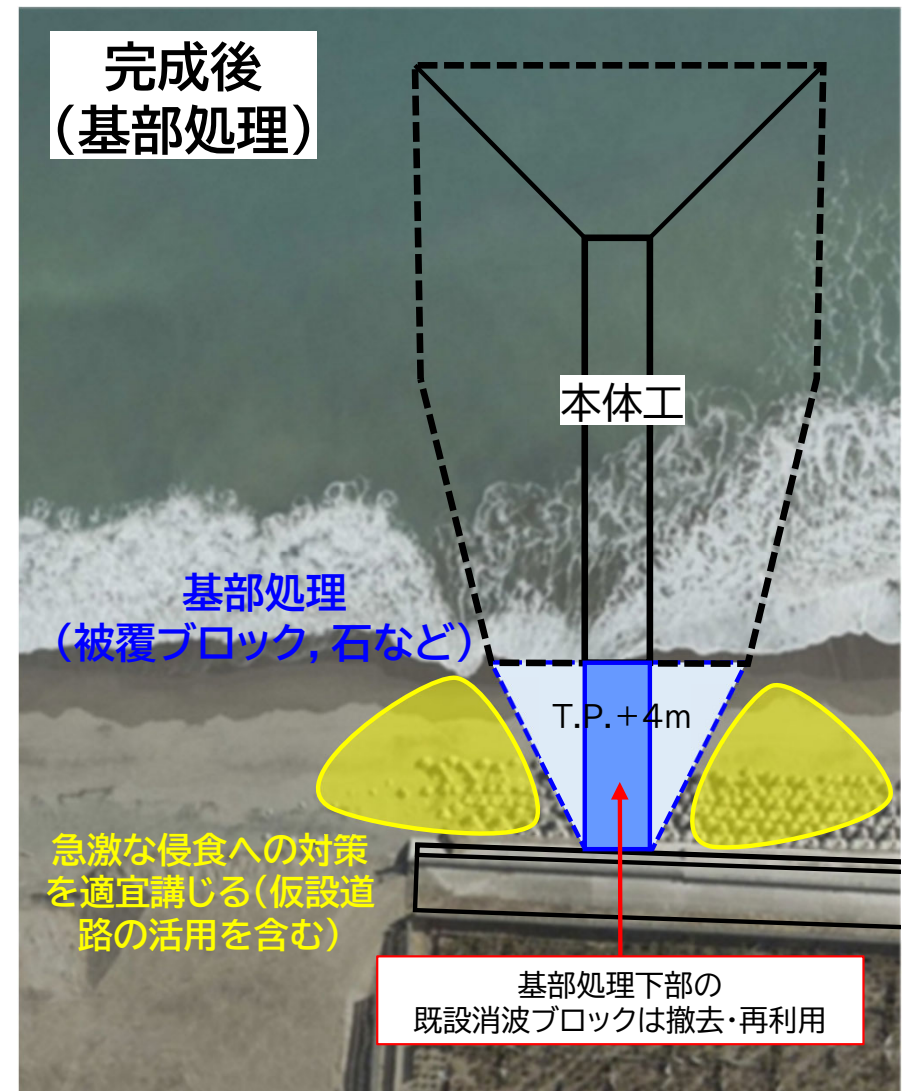
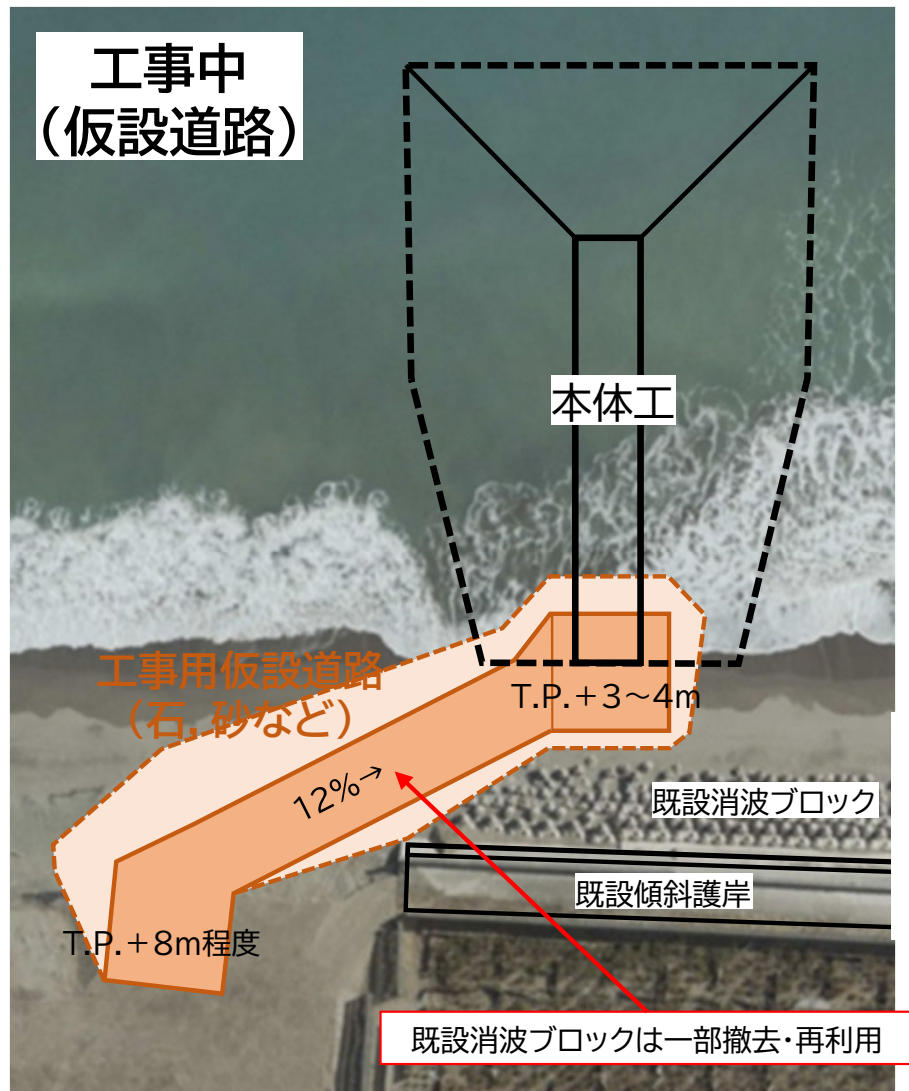
1)養浜

場所	養浜量	土質	期間
動物園東(※1)	2.1万m ³	海浜砂 (サンビーチより採取)	R6.5～R7.2
補助突堤①北側	2.0万m ³	川砂 (大淀川より採取)	R7.8～R8.3
補助突堤②北側	2.7万m ³	川砂 (大淀川より採取)	R7.8～R8.3
動物園東(※2)	1.7万m ³	海浜砂、陸砂 (サンビーチ、宮崎空港より採取)	R7.2～R7.12
石崎浜(Co護岸前)	2.86万m ³	川砂、陸砂 (清武川、市道より採取)	R7.4～R8.3
石崎浜河口右岸	2.8万m ³	海砂、川砂、陸砂 (宮崎港、加江田川等、傾斜地等より採取)	R7.5～R8.3
大炊田	1.5万m ³	川砂 (小丸川より採取)	R7.8～R8.3
合計	13.6万m ³		

※1 R7.2に投入済み養浜の斜面を緩やかにしたため、合計には含んでいない。
 ※2 小突堤(1基目)による急激な侵食を緩和するために実施。引き続き養浜材の確保に努める。

2)1基目(先行着手)の小突堤 ①全体の工事内容

- ・工事中は、石もしくは砂で仮設道路を設置することにより、本体工の基部の砂の移動を抑制する
- ・完成後は基部処理として、被覆ブロックもしくは石(500~1000kg/個など)で整備する
- ・仮設道路および基部処理下部の既設消波ブロックは必要に応じて撤去・再利用する



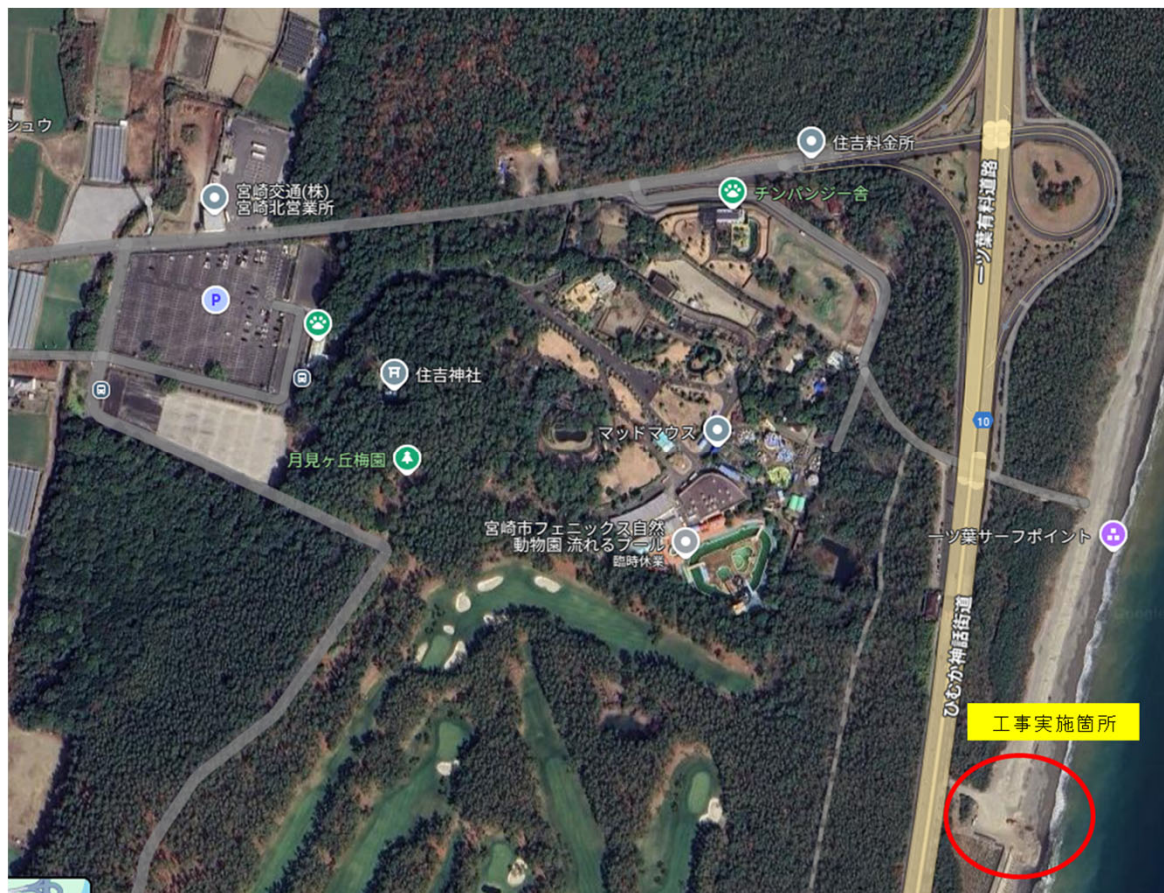
※今後技術分科会に共有・確認していく予定

2)1基目(先行着手)の小突堤

- 21 -

①令和7年度の工事予定 a)位置・時期等

【工事実施箇所位置図】



【拡大位置図】



【工事概要】

宮崎海岸において侵食対策の一環として漂砂制御を行うために突堤工事を行う。

工事内容:根固ブロック設置、間詰石設置、仮設工(工事用道路等)

工期予定:令和7年10月～令和8年6月(陸上部:10月～ 水中部:2月～)

工事担当:国土交通省 宮崎河川国道事務所 宮崎海岸出張所

2)1基目(先行着手)の小突堤

- 22 -

②令和7年度の工事予定 b)立入禁止等

【立入禁止区間(案)】



※立入禁止範囲(案)については、現時点で想定される最大範囲としており、今後調整により、範囲が狭くなることもあります。

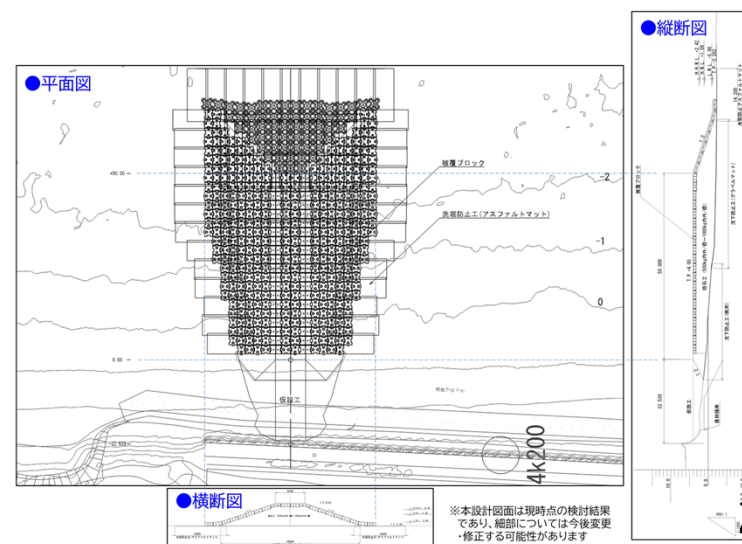
【工事施工イメージ】



今回の工事は、「石(約1トン)」と「コンクリートブロック(8トン)」を設置します

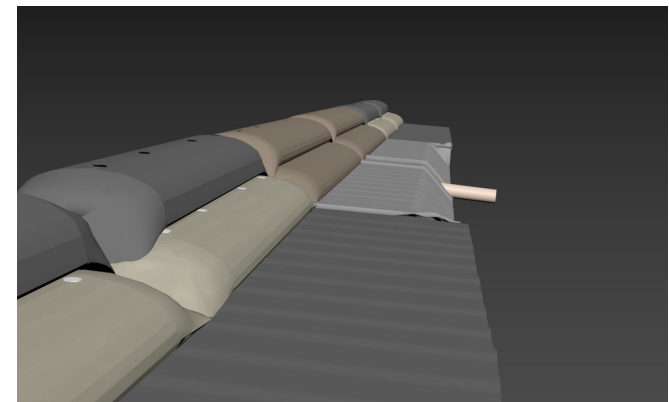
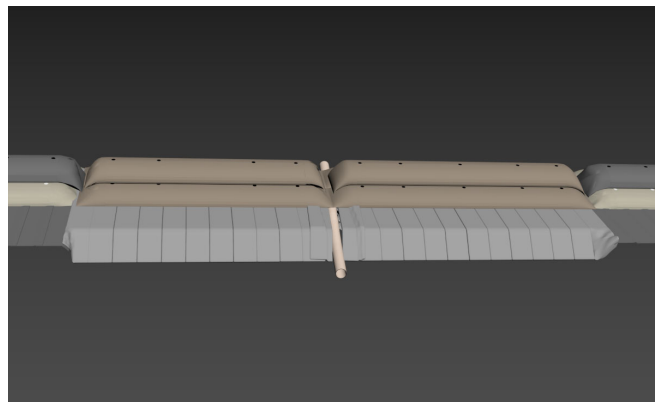
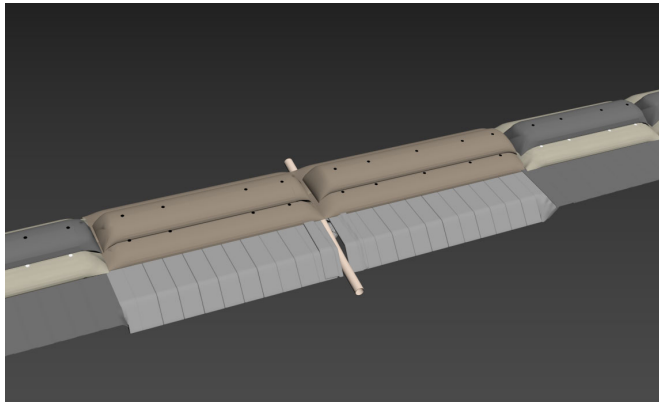
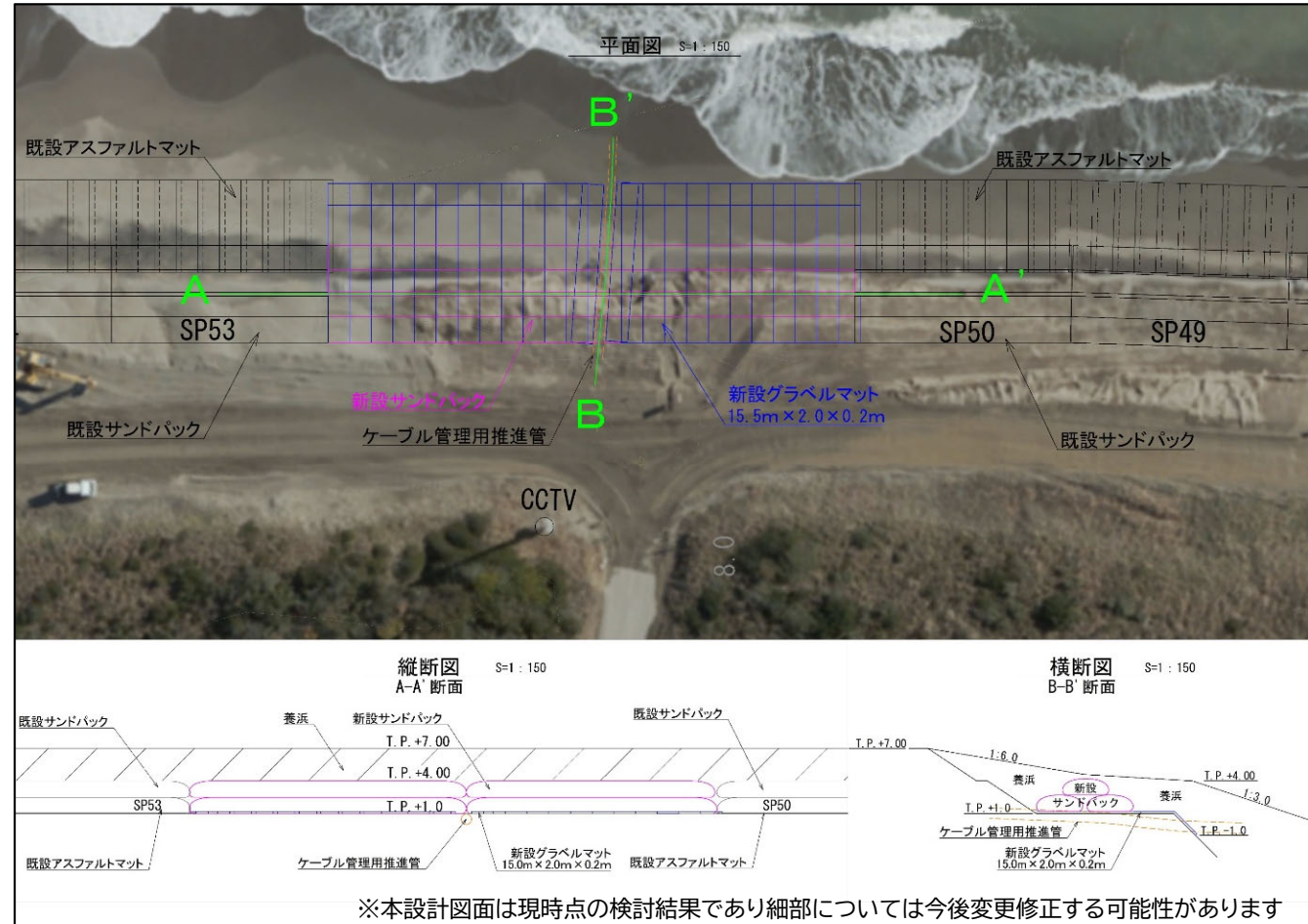
- 立入禁止範囲(案)内では、工事車両が往来し、下記のような多岐にわたる危険性があります。
接触事故、車両や作業員の死角による事故、
ブロック・巨石転倒等による事故等
- 突堤には、隙間があり、そこに落ちると出られなくなる可能性があります。
- 身動きがとれないときに波が高くなると、おぼれて死亡することがあります。
- 石やブロックが動いて、脚、腕、頭を挟まれたり、下敷きになったりすると大けがや死亡につながります。

このため、立入禁止範囲(案)には絶対に入らないで下さい。



3)大炊田の埋設護岸 ①全体の工事内容

- ・大炊田の里道前面は海底ケーブルが設置されているため、埋設護岸(サンドバック等)を一部施工していなかった。
- ・この区間の埋設護岸を完成させるために、既設サンドバック等の一部(6袋)を撤去・再設する。
- ・本工事は令和7年度中に完了予定である。



3)大炊田の埋設護岸

- 24 -

②令和7年度の工事予定 a)位置・時期等

【工事実施箇所位置図】

【拡大位置図】



【工事概要】

宮崎海岸において侵食対策の一環として、埋設護岸(サンドバック)設置工事を行う。

工事内容:サンドバック設置、グラベルマット等設置、仮設工(工事用道路等)

工期予定:令和7年10月～令和8年3月

工事担当:国土交通省 宮崎河川国道事務所 宮崎海岸出張所

3)大炊田の埋設護岸

- 25 -

②令和7年度の工事予定 b)立入禁止等

【立入禁止区間(案)】



※立入禁止範囲(案)については、現時点で想定される最大範囲としており、今後調整により、範囲が狭くなることもあります。

【工事施工イメージ】



【埋設護岸設置予定箇所】



2. 本日の談義 (2)これからの侵食対策事業について

1)全体の方方向性とスケジュール

2)動物園東エリアの砂浜を回復・安定化させるための対策

3)住吉エリアについて

1) 全体の方向性とスケジュール

●大炊田～動物園東エリアの侵食対策について

- ・動物園東エリアの早期の砂浜の回復のために、1基目(先行着手)の小突堤と養浜を実施するとともに、2基目の対策を検討していく
- ・大炊田～石崎浜エリアは、砂浜を回復するための小突堤と養浜について検討を進める

●住吉エリアの侵食対策について

- ・目標浜幅の確保が最も難しい住吉エリアについては、既設のコンクリート護岸と既設の突堤(3基)を活用し、砂浜形成を含めた背後地の安全性が確保できる対策を引き続き検討する

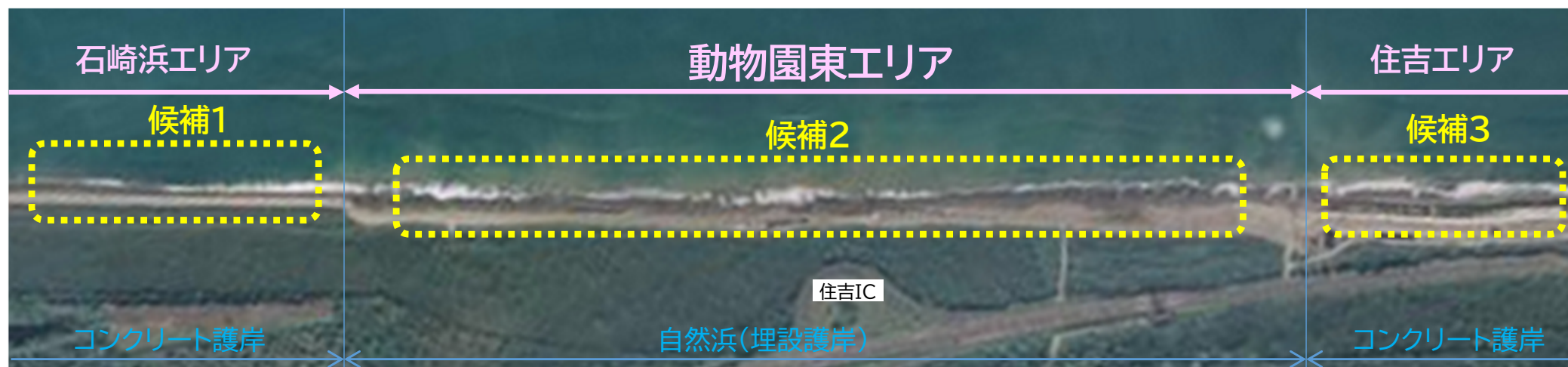
	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降	
全体計画		全体計画の策定		
	大炊田～ 動物園東	動物園東エリアの砂浜の早期回復		
		1基目(先行着手)の検討	1基目(先行着手)の実施	
			2基目の対策の検討	2基目の対策の実施
			石崎浜～大炊田エリアの砂浜の回復	
		対策の検討	対策の実施	
住吉		越波に対する安全性の確保		
	対策の考え方・目標などの整理・検討		対策の実施	

2)動物園東エリアの砂浜を回復・安定化させるための対策

- 28 -

①先行着手(1基目)のおさらい

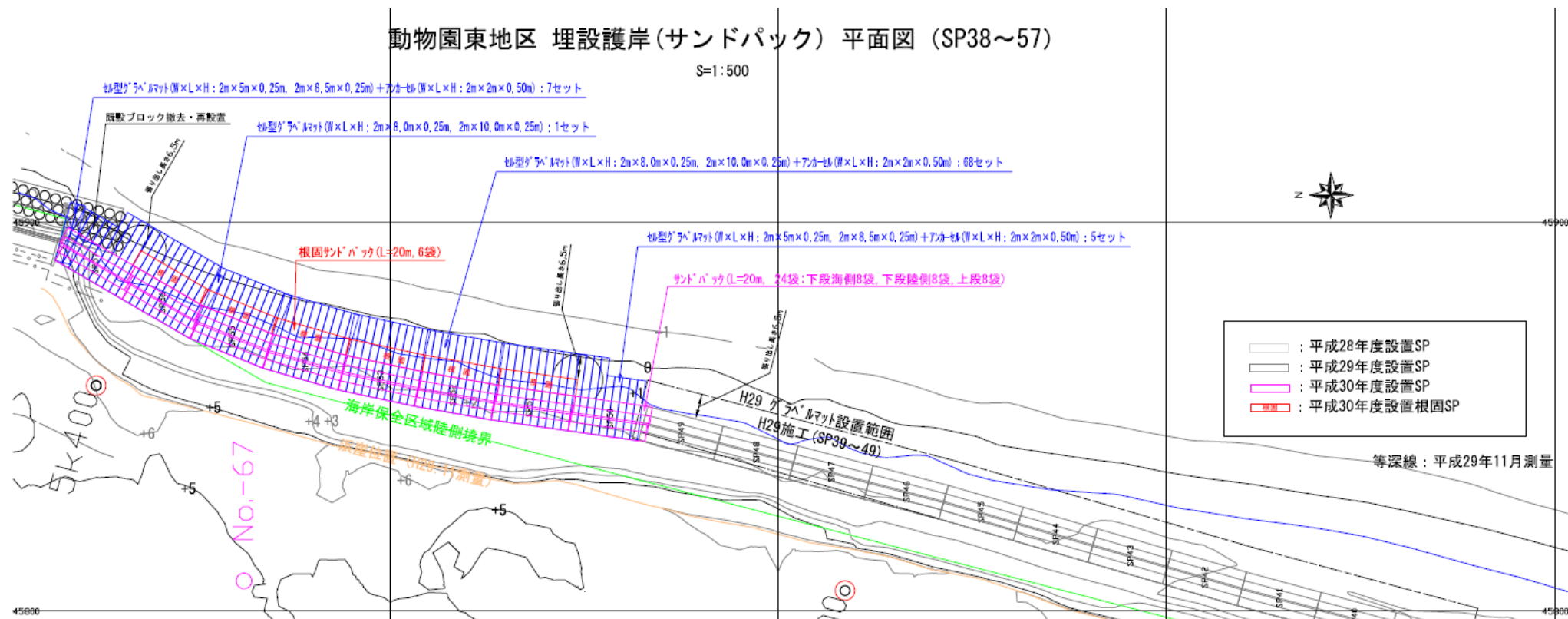
- ・卓越漂砂、周辺の一時的な後退の危険性を考慮し、候補3を先行着手箇所とする。なお、小突堤周辺や下手側の侵食を緩和するために養浜も合わせて実施する



候補	卓越漂砂	取り付け部の状況	北側の状況	南側の状況	総合評価
1	× ・動物園東エリアへの供給を阻害	○ ・コンクリート護岸であり取り付けが容易	○ ・コンクリート護岸であり一時的後退に耐性が高い	△ ・サンドバックであるが端部処理が行われている	○
2	△ ・動物園東エリア内の移動を制御	× ・サンドバックであり取り付けには十分な検討が必要	× ・サンドバックであり補強等の処理が必要	× ・サンドバックであり補強等の処理が必要	△
3	○ ・動物園東エリアからの流出を制御	○ ・コンクリート護岸であり取り付けが容易	△ ・サンドバックであるが端部処理が行われている	○ ・コンクリート護岸であり一時的後退に耐性が高い	◎

動物園東地区 埋設護岸(サンドバック) 平面図 (SP38~57)

S=1:500



R6.11.10撮影
(第54回市民談義所現地視察時)



3)住吉エリアについて ①検討の進め方

【動物園東・石崎浜・大炊田エリア】

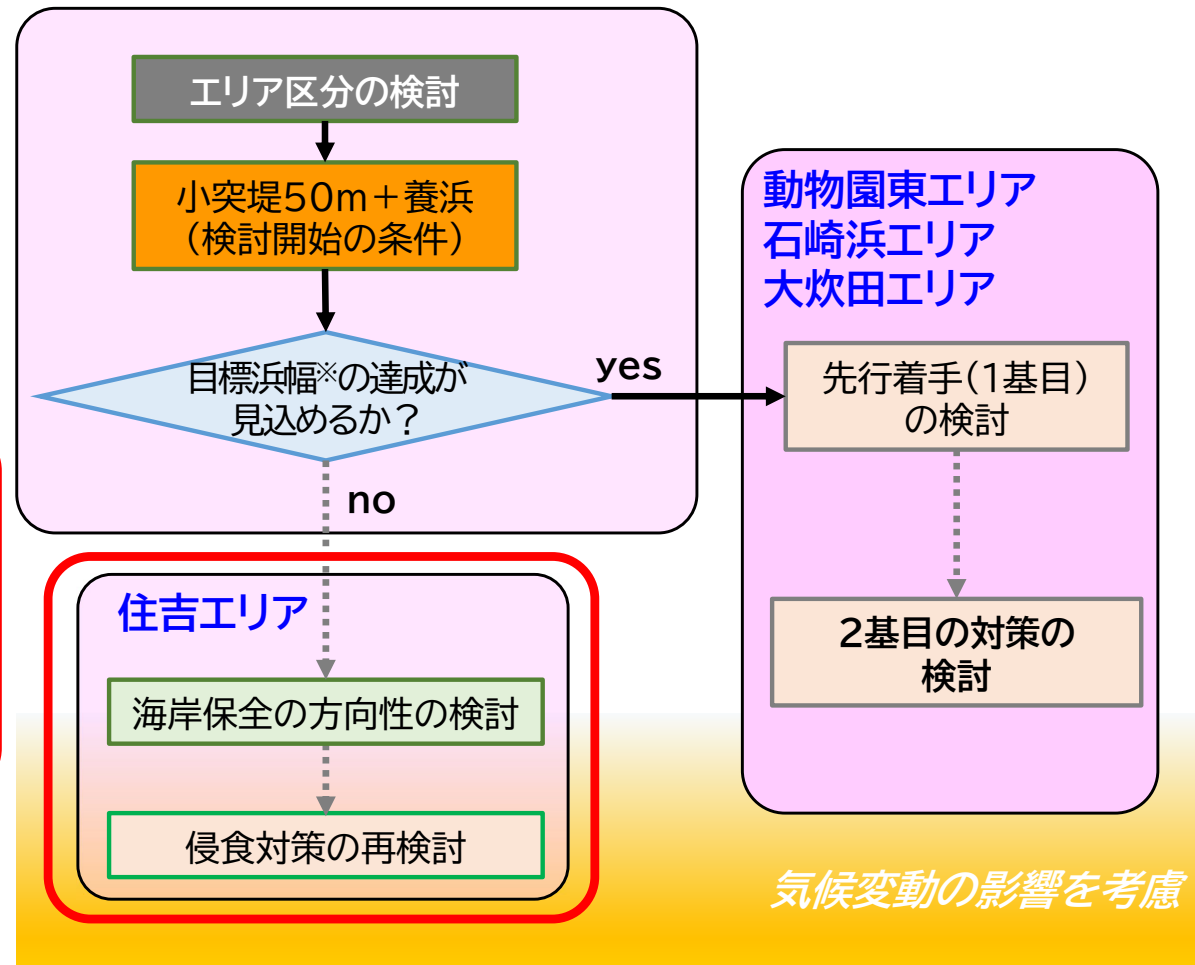
- 小突堤と養浜で目標浜幅の達成が見込めるため、早期砂浜回復のための先行着手(1基目)実施の具体について検討する。
- 事業を実施しつつ、エリア内の2基目の対策について検討する。

【住吉エリア】

- 小突堤と養浜では目標浜幅の達成が見込めないため、海岸保全の方向性を検討し、侵食対策を再検討する。

※気候変動について

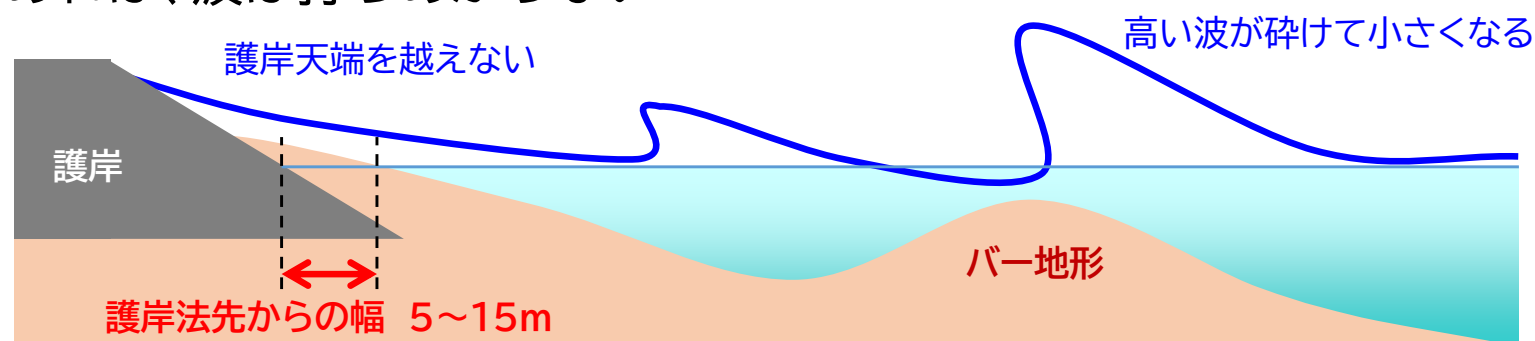
- 気候変動は上位計画である日向灘沿岸海岸保全基本計画で外力の設定が確定された後に検討する。



※当初計画の目標浜幅(50m)には短期変動分25mを見込んでいる

●住吉エリアの現状の安全性に関する知見

- ①バー地形(凸状の地形)があるため、高波浪が護岸に直接作用しない
- ②現状の波の打ち上げ高は概ね護岸天端高以下である
- ③緩傾斜護岸区間では護岸の法先より5m程度、傾斜護岸区間では15m程度の砂浜があれば、波は打ちあがらない



- ④汀線の短期変動幅は30年確率で25m程度、年に数回程度(1%程度)生じる短期変動幅は10m程度である

※気候変動に伴う海面上昇による汀線後退は、別途検討することが必要である

●住吉エリアの安全性の評価

- ①沖合のバー地形により海岸線に作用する波浪が減衰している
- ②突堤整備や養浜の効果により、波の打ち上げ高は概ね護岸天端高以下であるため、越波や護岸の被災が頻発するという状況ではない
- ③ただし、短期変動や気候変動の影響も考慮すると、長期的・抜本的な対策は必要

3)住吉エリアについて ③現状の確認

- 34 -

・住吉エリアの現状は下記のように評価できる

- 砂浜が恒常的にある状態ではないが、冬季などは突堤等施設の北側に砂浜が確認できる
- 北側ほど砂浜が確認できる時期は多く、補助突堤②の北側はほぼ常時砂浜が存在する

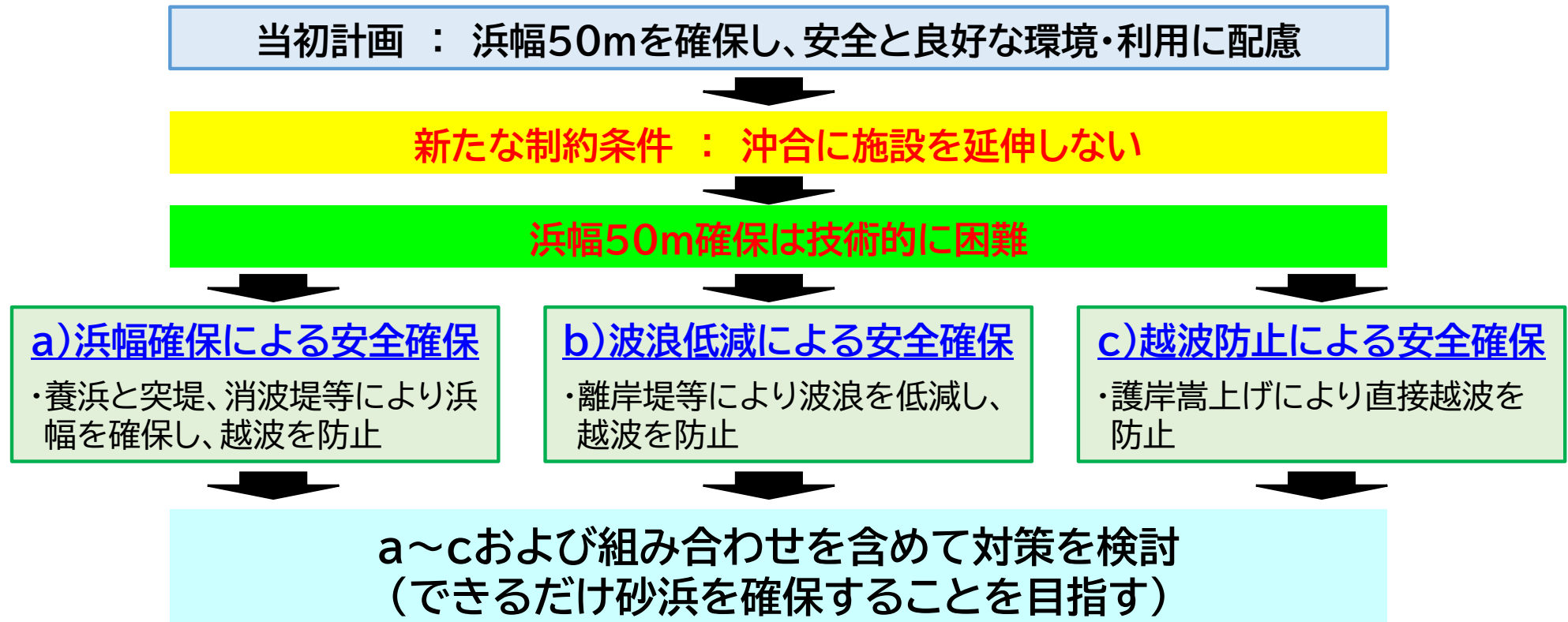


3)住吉エリアについて ④対策の考え方

- 35 -

・対策の考え方は下記のとおりである

- ①当初計画は「浜幅50m」で背後地の安全を確保するとともに、良好な環境・利用への配慮も考慮していた
 - ②“現時点では沖合に施設を延伸しない(現時点では既設突堤の先端程度まで)”という制約条件※を追加したことを受け、「背後地の安全確保＝越波防止」が可能となる対策を検討する
 - ③「背後地の安全確保＝越波防止」のための方策としては、a)浜幅確保, b)波浪低減, c)越波防止の3つについて整理する。なお、3案ともに、できるだけ砂浜を確保することを目指す
 - ④上記3つの方策(a～c)および組み合わせを含めて対策を検討する
- ・なお、各対策について、環境・利用への影響や、費用、材料調達等の実現性について、許容できるか、実現可能かを関係者(事業主体, 技術分科会, 関係行政および市民)に確認することにより、どの対策がベターかを検討していく



3)住吉エリアについて ⑤3つの方策

- 36 -

方策	イメージ	考え方
a)浜幅確保		・養浜により砂浜を確保し、それにより越波を防止する ・砂浜を維持する対策は、初期養浜＋維持養浜、さらには消波堤や突堤追加などが考えられる
b)波浪低減		・消波施設により波浪を低減し、それにより越波を防止する ・消波施設は、離岸堤、人工リーフが考えられる ・なお、消波施設は砂浜安定にも寄与する
c)越波防止		・護岸を嵩上げすることにより、直接、越波を防止する ・護岸嵩上げは、天端面を嵩上げする方法や、パラペットを設置するなどが考えられる



3)住吉エリアについて ⑥方策のイメージ a)浜幅確保

- 37 -

主なメリット

主なデメリット

方策	イメージ	考え方
a1) 大量の維持養浜		・初期養浜により浜幅を確保する ・大量の維持養浜により砂浜を維持する ※事業主体としては実施不可能な案
a2) 突堤による砂浜安定化 ※計画見直し検討のスタート案		・初期養浜により浜幅を確保する ・突堤を設置し、砂浜を安定化するとともに、維持養浜により砂浜を維持する
a3) 消波堤による砂浜固定化		・初期養浜により浜幅を確保する ・消波堤を設置し、砂浜を固定化する



3)住吉エリアについて ⑥方策のイメージ b)波浪低減

- 38 -

主なメリット

主なデメリット

方策	イメージ	考え方
b1) 離岸堤		・離岸堤により波浪を低減し、それにより越波を防止する ・離岸堤は砂浜安定にも寄与する
b2) 人工リーフ		・人工リーフにより波浪を低減し、それにより越波を防止する ・人工リーフは砂浜安定にも寄与する
b3) 岸側離岸堤		・b1よりも岸に近い位置の離岸堤により波浪を低減し、それにより越波を防止する ・離岸堤は砂浜安定にも寄与し、土留めの効果も期待できる



3)住吉エリアについて ⑥方策のイメージ c)越波防止

- 39 -

主なメリット

主なデメリット

方策	イメージ	考え方
c1) 天端面の 盤上げ		・護岸を盤上して天端高を確保し、直接、越波を防止する
c2) 消波工		・消波工を設置することにより、直接、越波を防止する
c3) 護岸の 構造変更		・護岸の構造を変更し、嵩上げすることにより、直接、越波を防止する ・既設護岸を撤去することにより、コンクリートで被覆していた部分を自然の空間に戻す



3. 今後のスケジュール

今後のスケジュール

			令和6年度												令和7年度											
			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
会 議	市民 談義所	主な 内容	(委員会等 の報告)	・現状認識		・海岸保全 の方向性 ・施設につ いて		・対策着手 に向けて (現地談義)	・先行して 着手する箇 所(案) ・計画案		・先行着手 箇所の対策 ・住吉エリ アの方向性 ・効果検証		・先行着手 対策詳細 ・効果検証		・海岸保全 の方向性			・住吉エリ アの方向性 ・2基目の 対策につ いて		・住吉エリ アの対策案 ・2基目の 対策案		・住吉エリ アの対策案 ・2基目の 対策案		・住吉エリ アの対策案 ・2基目の 対策案		
	※色文字は 報告	会議	第51回	第52回		第53回		第54回	第55回		第56回		第57回		第58回			第59回		第60回		第61回		第62回		
	技術分科会																									
	効果検証分科会																									
	委員会																									
工 事	養浜																									
	突堤等(予定)																									

今回

			令和7年度											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会議	市民談義所	主な内容	・先行着手対策詳細 ・効果検証		・海岸保全の方向性			・住吉エリアの方向性 ・2基目の対策について		・住吉エリアの対策案 ・2基目の対策案		・住吉エリアの対策案 ・2基目の対策案		・住吉エリアの対策案 ・2基目の対策案
	※色文字は報告	会議	第57回		第58回			第59回		第60回		第61回		第62回
	技術分科会								第18回					
	効果検証分科会											第13回		
工事	委員会		第25回								第26回			第27回
	養浜 突堤等(予定)													

※談義の内容等によりこのスケジュールは変更する場合があります